



課題別研修（キャリア教育研修）



「地方県宮崎における今後のキャリア教育～縦・横の連携～」

8月8日（水）、宮崎県教育研修センターで、NPO法人カタリバ事業部長の今村亮氏、宮崎花ふぶき一座長の宮田わかな氏、野菜ソムリエの大角恭代（おおづのやすよ）氏をゲストに迎え、県内高校生のキャリア教育実践事例や産業界・地域との連携推進モデルを参考に今後の方策について学びました。

リレープレゼン～縦の連携～（県立高校の発表より）

日向高校、高鍋農業高校、小林秀峰高校、福島高校の4校が、動画を含めた発表を行いました。動画の内容は、生徒が自ら研究した内容を発表する姿で、小中学校の先生方にとっては、卒業後の姿を想像するいい機会になっていました。

小中学校の先生方からの質問「中学校までにどのような力を育てておくべきか。」に対しては、「探究心」、「（課題）対応力」、「課題解決力」等の回答でした。また、小学校の先生方から「今まで夢を描かせる指導ばかりであった。これからの社会を見据えて新しい仕事にも対応できるような指導を行ってほしい。」、中学生の先生方からは「早い段階から現実的に考えさせることが大切だと感じた。」等の意見が出されました。

今村氏の講評では「キャリア教育、地域連携、進路指導等についての話であったが、何が目的で何が手段なのかを明確にする必要がある。」「アウトプットは非常に大事である。ただ、プレゼン（アウトプット）の質も大事であるが、それ以上に振り返りの質を高めることが重要である。」「プロジェクトの質より、挑戦したことが学びに繋がっていることが大切である。」「学習者主体にスイッチをどう切り替えるかが重要である。」等の助言をいただきました。



トークセッション～横の連携～（地域・産業界と学校におけるキャリア教育の推進）

NPO法人カタリバ事業部長の今村亮氏、宮崎花ふぶき一座長の宮田わかな氏、野菜ソムリエの大角恭代（おおづのやすよ）氏とのトークセッションでは、「今、形がある決まった仕事を教えているキャリア教育は根本的に考えて欲しい。」「『やりたいことを見つけなさい』という指導では、見えるものからしか選ばない。本人が選ばないようなことを投げ込むことも重要である。」「就職するときに『やりがい』を選ぶ若者は増えている。」「『ふるさとに帰りたい』という若者は、小中高の時代にふるさとの良さを認識している。」「学習者主体とは好きなことをさせるものではなく、ニーズがないものを課題にさせることではないだろうか。」等の意見が出されました。



本研修参加者からは、「高校生の話を中学生にも聞かせたい。」「異業種の方と話をすることは新たな気付きになる。」「キャリアの視点をもって授業や教育を見直したい。」「生徒自身が社会に貢献している、影響を与えていると実感できるような取組を考えたい。」等の感想がありました。

職場体験学習の新たな試みについて！

前号に続き、みやぎキャリアフォーラムで紹介した学びの質を高める職場体験学習の紹介を行います。各学校で職場体験学習の見直しを考えている場合は、気軽に宮崎県キャリア教育支援センターにご相談ください。

問題提起

- ア 連続5日間での実施が推奨されているが、教育課程を考えると実施は極めて難しい。
- イ 実施から15年以上経つが進化がなく、イベント化・マンネリ化が指摘されつつある。
- ウ 何でもいから体験を…と依頼されるが、受入企業側には本当に現状でいいの不安がある。
 - 職場体験学習の目的や効果を今一度振り返る（リニューアルする）必要があるのではないか。

学びの質を高める職場体験学習への転換

○ 戦略発見型（SDL：Strategy Discover Learning）※今回新提案（宮崎県キャリア教育支援センター）

- 職場体験学習を、1種の「ジグソー法」と見立てる
 - 体験先で各自が学んだ事例を教室に持ち帰り、相互に共有して全体像を浮かび上がらせる。
- 単に体験するだけでなく、各職場の「経営戦略」などから学びを深める
 - 現実社会で活躍できる「戦略」をもちより、将来必要な資質や能力を浮かび上がらせる。

